

国語教材「スイミー」を他教科で共通の教材として使う可能性

笠原 茂子・大野木 裕明

仁愛大学人間生活学部

Potential of utilization of “Swimmy” as a common teaching material among other subjects

KASAHARA Shigeko & OHNOGI Hiroaki

Faculty of Human life, Jin-ai University

小学校学習指導要領（平成29年告知）解説 国語編」に示された教科連携に関して、小学校国語教材「スイミー」が国語以外の教科に教材として活用できるかどうかを現職教員に質問した。（１）小学校学習指導要領解説（国語編）に特記された科目で使用できるとする回答率の高かった科目は「特別の教科 道徳」（保育・幼稚園職経験者で70%以上、小学校職以上経験者で90%以上）、言語系科目「外国語活動」（ともに40%以上）、「外国語」（ともに50%以上）などであった。（２）同解説に示されていない「図画工作」（ともに80%以上）、５領域の中の「人間関係」（ともに90%以上）、「環境」（ともに60%以上）、「言葉」（ともに70%以上）にも高い百分率が示された。（３）５領域「健康」や小学校「家庭」などでは非常に低かった。この結果や自由記述回答から、小学校国語教材「スイミー」を他のいくつかの領域・教科等の中で具体的に検討することは、大学の教員養成科目群においても有望な検討課題になりうると考察した。

キーワード：教科連携 小学校学習指導要領解説（国語編）小学校国語 幼稚園教育要領 ５領域
保育所保育指針 ５領域 スイミー（レオ＝レオニ） 教育心理学

問題と目的

1. 教科連携

「小学校学習指導要領（平成29年告知）解説国語編」においては随所に教科連携が謳われている。一例を引用すると次のようである。

[外国語活動及び外国語科との連携]

他教科等との関連についての配慮事項：「（８）言語能力の向上を図る観点から、外国語活動及び外国語科など他教科などとの関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること。」（p.159）

この指導計画作成に当たっては、次のような留意事項が示されている。

「他教科等の内容の系統性や関連性を考慮することが求められる。その際、国語科と同様、言語を直接の学習対象とする外国語活動及び外国語科との連携は特に重要なものとなる。」

「例えば、国語科の学習内容が外国語活動及び外国語科等の学習に結び付くよう、指導の時期を工夫すること、関連のある学習内容や言語活動を取り上げた単元の設定を工夫することなどが考えられる。」（同書p.159）

さらに、特別の教科道徳などとの関連においては、その配慮事項が示され、指導計画作成には次の留意事項も示されている。

[特別な教科としての道徳との連携]

「（10）第1章総則の第1の2の（2）に示す道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容について、国語科の特質に応じ

て適切な指導をすること。」(同書pp.160-161)

「国語科で扱った内容や教材の中で適切なものを、道徳科に活用することが効果的な場合もある。また、道徳科で取り上げたことに関係のある内容や教材を国語科で扱う場合には、道徳科における指導の成果を生かすように工夫することも考えられる。」(同書p.161)

このように教科連携が謳われているが、これは現実的に定着できそうな現場への提案課題になっているのだろうか。

2. 前報告から

前報(笠原・大野木, 2018)では、教職関連科目の受講大学生に指導観や教材観の一端を尋ねた。これは小学校2年国語科教材「スイミー」(光村図書)に関する教科連携の具体的な構想についての質問であった。以下にその結果の一部を略述する。

[質問] : スイミーを国語以外の授業に使うとしたら、どんな領域や教科に使えますか？ あなたが使えそうだと思う領域や教科に、いくつでも丸印を付けて下さい。幼稚園5領域：健康、人間関係、環境、言葉、表現、小学校教科等：社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育、外国語、特別の教科道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動。

結果は非常に特徴的であった。幼稚園5領域に「使用できる」との回答では「人間関係」領域についてが多かった(81.7%)。他の領域の「表現」「環境」「言葉」は少なく、「健康」に関してはさらに少なかった。小学校教科等に関しても同様に極端な特徴、すなわち「特別の教科 道徳」(53.3%)の百分率が高かった。この小学校教科等の科目は小学校学習指導要領解説(国語編)に明記された教科連携科目と大きくは矛盾しなかった。これ以外では「総合的な学習の時間」「生活」にも多少の言及がみられた。言語系教科としての「外国語活動」「外国語」は意外なことにそれほど列挙されず、この結果は「小学校学習指導要領解説(国語編)」の教科連携の記述と必ずしも呼応しなかった。

このように、「国語」以外に国語教材「スイミー」

を他教科でも使うという、いわゆる「共通教材」の候補科目群が教職志望大学生から得られた。なお、「共通教材」「共通の科目」の語は、「異なる教科等や領域において使用する同一の教材」という意味で使用している。

3. 本研究の目的

笠原・大野木(2018)の結果は、まだ大学の教職課程履修中であり教員免許状を取得途中の大学生に対する暫定的な意識調査に留まっている。彼等はすべての関連科目を修得したわけでもなく、新しい学習指導要領の記述そのものさえ本格的には学んでいない。教科連携の言葉自体も説明が必要なほどに未知の学生がほとんどであるという前提の限定的結論に過ぎない。したがって、これら教科連携が現実的に実践可能であるかについては、さらにいくつかの視点から具体的に検討する必要がある。

本研究の目的は、現職の学校教員とりわけ幼稚園教諭の免許資格あるいは小学校教諭の免許資格を有する教員に対して、「スイミー」を共通教材とした実践の可能性の有無に関する意識調査を行うことである。調査対象を限定したのは「スイミー」が小学校国語の教材として長年にわたって使われているので、ほとんどの教員が教材内容を知っているということ、就学前に近い年齢の小学校1、2年対象の教材であること、定評のある翻訳による教材であることなどによる。

このたび我々は、現職教員の方々に調査回答を依頼する機会を得たので、ここにその結果を報告する。

方 法

1. 回答協力者

ある教育講習会(主として幼稚園と小学校教諭)に参加した教員、およびある教育研究会に参加した小・中学校教員と図書館支援員の方々である。

2. 回答依頼の時期と倫理的配慮

回答の有無が特定できない自主的な回答形式による依頼とした。内容が教育実践指導に関する意識調査であるので倫理的な問題は少ないとみなした。

前者に関しては2018年8月6日（月）の講習会会場における休憩時間に、当該集団に対して調査の主旨を説明した。依頼では、この調査の主旨に賛同する方に依頼すること、無記名形式で所定の回収箱に後で提出していただくので回答者や回答の有無は特定できない集計の仕方であることを告げた。後者に関しては同年8月1日（水）に開催された義務制教員の研修会（A市教育研究会図書館部会）で同様に趣旨を説明した。留置法により依頼して1週間後の8月8日（水）を提出締め切り、郵送法により8月9日（木）に回収を終えた。回答者に重複はなかった。

3. 質問の内容

質問は次の3つと回答者の勤務年数についてであった。

質問1：「スイミー」を国語以外の授業で（部分的にでも）使うとしたら、どんな領域や教科等に使えるとお考えですか？ 使えそうだと思いの領域や教科等について、「使える」「使えない」「どちらともいえない」のいずれかに丸印を付けて、お答えください。（領域や教科はいくつでも）健康、人間関係、環境、言葉、表現（以上5領域）、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育、外国語、特別の教科道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動（以上小学校）、中学校以降は該当する教科を記入。

質問2：あなたがもっとも試みてみたい授業の領域・教科等を上記から1つだけお答え下さい。

質問3：質問2の領域・教科等の回答では、どの場面を、どんなねらいでなさいますか？（ご自身以外の先生がご担当、またはTT〔チーム・ティーチング〕をなさる場合も含みます）（自由記述による、「スイミー」の該当箇所は文のみ通し番号を付けて付録とした）。

質問4：あなたのこれまでの勤務年数をお教え下さい（それぞれにご回答願います。）保育所（保育所型認定こども園を含む）、幼稚園（幼稚園型認定こども園を含む）、小学校、小学校以外の学校（ただし幼稚園を除く）。

結 果

1. 集計の手順

教育講習会の参加者198名のうちで173名の回答（回収率は87.4%）、義務制教員の研究会の参加者30名のうち20名の回答（回収率は66.7%）が得られた。両者の合計は現職者228名のうち193名（回収率84.6%）となった。ただし、部分的に未記入の回答用紙も含まれる。

この教員免許状を所持する教育・保育現職者の内訳であるが、保育歴だけ、学校教育のうち幼稚園歴だけ、保育歴と幼稚園歴の両方、幼稚園の教育歴のない小学校歴などさまざまであった。全体としては、幼稚園免許を有するが勤務先が保育園とする回答者がかなりの割合を占めた。このようなことから、集計に基づいて一般的な傾向を把握するのは不適切であると判断した。そこで、定量的な分析にあたっては、5領域に関して熟知しているであろう保育園あるいは幼稚園の教育歴を有する層、小学校教科等に関して熟知しているであろう小学校種以上の学齢の教育歴を有する層について、それぞれに集計することとした。以下、保育園あるいは幼稚園の現職経験があるが小学校以上の年齢の学童に対する教育歴のない回答者を「保育・幼稚園職経験者」と略記する。また、学齢が小学校以上の校種の職歴経験者を「小学校職以上経験者」と略する。

定量的分析にあたり、その領域・教科が共通教材として「使える」「どちらともいえない」「使えない」（質問1）とする3択回答は、順に3点、2点、1点と得点化して平均値と標準偏差を算出した。併せて直感的に見やすくするために百分率（分母：有効回答者／分子：領域・教科等の選択数）も併記した。選択は複数回答形式であった。

2. 小学校職以上の経験者の結果

有効回答者数は46名であった。ただし、5領域に関する未回答が頻出する傾向が見られた。結果は表1に5領域、表2に教科等を便宜的に分けて示した。

5領域（表1）に関しては、「人間関係」が有効回答者の中で100%であった。「言葉」（81.0%）、「環境」（71.4%）も高い回答となった。一方、「健康」「表現」

は有効回答のうちの10%に留まっていて著しく低かった。

教科等（表2）に関しては、「図画工作」（95.0%）と「特別の教科 道徳」（92.3%）が90%以上であり、非常に高い百分率であった。このほかには「外国語活動」（65.8%）、「音楽」（64.9%）、「生活」「外国語」（いずれも63.9%）、「体育」（61.5%）、「特別活動」（58.3%）と続いたが、これらは上述の「図画工作」「特別の教科 道徳」と比べると30%程度の大きな開きが見られた。百分率による傾向は平均値を見ても同様傾向であり、また標準偏差をみても極端な数値の散らばりは認められない。

もう1つの特徴は回答傾向の偏りであった。小学校職以上経験者は5領域に関する回答者が少なく（表1）、教科等に関する回答数が比較的多かった（表2）。

表1 小学校職以上の経験者による5領域関係の回答

5領域	平均(標準偏差)	百分率(%)	回答数
健康	1.75(.64)	10.0	n=20
人間関係	3.00(.00)	100.0	n=21
環境	2.67(.58)	71.4	n=21
言葉	2.81(.40)	81.0	n=21
表現	3.00(.00)	10.0	n=22
回答者46名	百分率の分母はn		

表2 小学校職以上の経験者による教科等関係の回答

教科等	平均(標準偏差)	百分率(%)	回答数
社会	1.94(.73)	22.9	n=35
算数	2.00(.80)	31.4	n=35
理科	2.26(.72)	42.1	n=38
生活	2.56(.65)	63.9	n=36
音楽	2.57(.65)	64.9	n=37
図画工作	2.95(.22)	95.0	n=40
家庭	1.72(.66)	11.1	n=36
体育	2.49(.72)	61.5	n=39
外国語	2.64(.49)	63.9	n=36
特別の教科道徳	2.92(.27)	92.3	n=39
外国語活動	2.63(.54)	65.8	n=38
総合学習	2.33(.54)	36.1	n=36
特別活動	2.53(.61)	58.3	n=36
表1の続き(回答者46名) 百分率の分母はn			

3. 保育・幼稚園職経験者の結果

有効回答者数は150名であった。教科等に関する未回答が目立つ傾向が見られた。さきと同様に、表3に5領域、表4に教科等に便宜的に分けてまとめた。

5領域（表3）に関しては、「人間関係」の百分率は90.0%であった。「表現」（88.4%）、「言葉」（74.7%）、「環境」（66.7%）も高い百分率となった。「健康」は25.7%に留まり、表1の「健康」（10%）ほど低くはな

いものの、5領域の中でみると同様にもっとも低い領域であった。

教科等（表4）に関しては、「図画工作」（83.1%）と「特別の教科 道徳」（73.6%）が高い百分率を示した。これは、さきの小学校以上経験者（表2）の「図画工作」（95.0%）と「特別の教科 道徳」（92.3%）で見られたと同様の高い傾向であった。次には「生活」（72.1%）が上位であったが、これは表2「生活」（63.9%）よりも少し高めであった。

過半数（50%以上）を1つの目安にして概観すると、「総合学習」（68.3%）[表2では36.1%]、「特別活動」（56.3%）[表2では58.3%]、「音楽」（55.0%）[表2では64.8%]という傾向になった。「外国語」（59.2%）、「外国語活動」（47.4%）は、表2では順に63.9%と65.8%となっていて、似た傾向を示した。

表3 保育・幼稚園職経験者による5領域関係の回答

5領域	平均(標準偏差)	百分率(%)	回答数
健康	2.04(.69)	25.7	n=144
人間関係	2.83(.54)	90.0	n=150
環境	2.59(.64)	66.7	n=147
言葉	2.69(.57)	74.7	n=150
表現	2.81(.55)	88.4	n=147
回答者150名	百分率の分母はn		

表4 保育・幼稚園職経験者による教科等関係の回答

教科等	平均(標準偏差)	百分率(%)	回答数
社会	1.94(.73)	40.5	n=121
算数	2.00(.80)	27.5	n=120
理科	2.26(.72)	40.0	n=120
生活	2.56(.65)	72.1	n=122
音楽	2.57(.65)	55.0	n=120
図画工作	2.95(.22)	83.1	n=124
家庭	1.72(.66)	16.0	n=119
体育	2.49(.72)	42.6	n=122
外国語	2.64(.49)	59.2	n=120
特別の教科道徳	2.92(.27)	73.6	n=121
外国語活動	2.63(.54)	47.4	n=116
総合学習	2.33(.54)	68.3	n=120
特別活動	2.53(.61)	56.3	n=119
回答者150名(表3の続き) 百分率の分母はn			

最後に、特に高低が顕著であった領域・教科等、及び学習指導要領等で教科連携の記載のあった教科を概括しておく。

特段に数値に根拠はないものの高低3割を1つの目安にすると、小学校職以上経験者では「人間関係」「環境」「言葉」「図画工作」「特別の教科 道徳」が高く、「健康」「表現」「社会」「家庭」が低かった。保育・幼稚園職経験者では、「人間関係*」「言葉*」「生活」

「図画工作*」「特別の教科 道徳*」が高く、「健康*」「算数」「家庭*」が低かった。なお、(*)は、小学校職以上経験者、保育・幼稚園職経験者ともに共通に列挙された領域・教科等である。

ここで教科連携が推奨された「外国語」「外国語活動」「特別の教科道徳」について小学校職以上経験者、保育・幼稚園職経験者の順に百分率の結果を記しておく（再掲含む）。「外国語」（63.9, 59.2）、「外国語活動」（65.8, 47.4）、「特別の教科 道徳」（92.3, 73.6）。また、「総合学習」（36.1, 68.3）、「特別活動」（58.3, 56.3）も高い傾向を示した。

4. 領域・教科連携の具体に関する結果

質問2を中心に定性的な概観による検討をおこなって、主として今後の基礎的資料として位置づける。

小学校学習指導要領に記載された教科連携は5領域を想定していない。しかしながら、得られた結果は5領域に多く言及するという際だった特徴が見られた。そこで、回答をいわゆる「イチ押し」（第一候補）の領域・教科等に再編して、特徴を浮き彫りにする。以下に、「人間関係」「表現」「環境」「特別の教科 道徳」「外国語」「外国語活動」などを引用するが、ただし、それらは全体の中の一部に過ぎず、その列挙に関しては必ずしも一貫した根拠に基づくものではない。

4-1. 「人間関係」

[ケース1 保育歴8年]

本文：未記入

所要時間：30分

実践の扱い方やねらい：一匹だけ体の色が違うことを気に留めず、またそれを生かしてみんなの事を励ましたり力になるという姿。みんなで力を合わせれば何でもできるという事。

[ケース2 幼稚園歴24年]

本文：23番（「スイミー」の文章の各文頭番号、全体は本稿末尾に添付）

所要時間：30分～1時間

実践の扱い方やねらい：「いろいろ考えた」→他にどんなことを考えたのか？ そしてそれをしなかったのはなぜ？ もし自分だったらどんな考えが思い浮かぶ？ そしてどうなる？

4-2. 「表現」

[ケース3 保育園歴40年]

本文：9番～16番

所要時間：60分

実践の扱い方やねらい：木、布や紙、様々な素材を使って、海の生物を作る、独創する力を育む、また制作物を使って物語を表現、発表、鑑賞する。

[ケース4 幼稚園歴9年、保育園歴1年]

本文：9番～16番

所要時間：45分ぐらい

実践の扱い方やねらい：海のいろいろな生き物に変身してみよう→生き物を知る・言葉の音の響きを楽しむ・自分なりの表現を楽しむ→音楽をつけて合わせる。

4-3. 「環境」

[ケース5 幼稚園25年]

本文：9番～16番

所要時間：15分～20分

実践の扱い方やねらい：海の中の生き物についてどのような生物がいるかを知り、その特徴などを知る。

4-4. 特別の教科 道徳

[ケース6 保育園歴15年、幼稚園歴1年]

本文：19番～28番

所要時間：30分～40分

実践の扱い方やねらい：大きな魚に食べられないための作戦を一人ひとりが考えて発表し、どうするか決めていく。考える力、みんなの考えを聞く力を養う。そして協力して配役を考えて進めていく。

[ケース7 小学校歴5年]

本文：25番、26番、27番

所要時間：10分

実践の扱い方やねらい：一人ひとりに対する課せられた責任意識。一人では弱いけれど皆で力を合わせると大きな力になること（協力、責任感）を養う。

4-5. 外国語、外国語活動

[ケース8 小学校10年]

本文：未記入

所要時間：最初の導入10分ぐらい（外国語活動）

実践の扱い方やねらい：英語の絵本の読み聞かせ。

〔ケース9 保育園歴5年，幼稚園歴4年，認定こども園2年(原文ママ)〕

本文：all

所要時間：未記入（外国語）

実践の扱い方やねらい：誰もが知っている話の文法の使い方など。

3-6. その他

〔ケース10 幼稚園歴3年〕

本文：海に住んでいる生物の生態

所要時間：45分（小学校か中学校の理科）

実践の扱い方やねらい：スイミーたちのように海にいる生物はいろんな方法で身を守っている。群れで行動するもの以外にも岩に擬態したり砂に潜ったりするものもいる。いろんな生態を知ることこそが生物に対しての理解を深めると同時に食物連鎖や命のはかなさなども学んで欲しい。

〔ケース11 小学校歴8年〕

本文：すべて

所要時間：8時間ぐらひは最低でも

実践の扱い方やねらい：学習発表会としてスイミーの曲を学級もしくは学年全体で発表する。毎年、2年生は最後の授業参観で「スイミー」を発表します。役割分担し全員が1つずつセリフを言ったり、皆で歌を歌ったりする。2年生の学習の総まとめとして扱う。6年生を送る会などで、全てを扱えない場合は17番～28番までを扱っていました。

ここまで11のケースを引用したが、主観的な概括であることは認めつつも、これ以外も含めて以下のようなことが回答の趣旨からうかがわれるものと判断したい。

得られた結果としては5領域に係わる内容が多かった。まずは、もっとも多かった領域「人間関係」から言及する。これらの各回答では、「頑張ればできる」「みんなで力を合わせる」「友だちと関わる楽しさ」「思考力と実行力」「人を信頼すること」「集団にはルールも必要であることがあること」「一人ひとり個性・容姿がそれぞれ違うことは悪いことではないし、そのことに対して言うことはおかしい」「いじめ・悪口などに対して考えるきっかけをねらう」などのように類

似の回答が多く認められた。これを我々なりに概括するならば、(1)課題に立ち向かう個人とその集団の積極的な関わり方について、すなわち皆で協力すれば個人の力以上の力が発揮できると促すこと、(2)他者の外見容姿や行為を認め合うことが大切ということ、といったところであろうか。

領域「表現」にも多くの回答が寄せられた。記述としては、「海のいろいろな生き物に変身してみよう」「スイミーの物語に出てくる役になりきって表現することを楽しむ」「好きな場面や印象に残った所など、好きな登場人物などを好きなように思いのままに絵にする」「表現遊び、劇遊び、ごっこ遊び」「クラスでスイミーの劇」などがあつた。同様に、我々なりに概観すると、皆で劇化したり音楽を付けたり絵を作ったり造形をして楽しんで表現するといった内容が主であつたように見受けられた。

領域「環境」であるが、「人間関係」「表現」と比べると極端に回答数が少なく、内容的にも「仲間と協力することの大切さ」のように、直接には「環境」と無関係にみえるかのような回答もあり、また、実践の扱い方やねらいが未記入である回答も見られた。

「特別の教科道徳」では、領域「人間関係」と非常に似た回答傾向が見られた。特に、ルール、責任、協力、仲間、話し合いといった語が多く見受けられた。

総括

「小学校学習指導要領（平成29年告知）解説 国語編」においては教科連携が謳われている。そこでは、言語系教科として外国語活動及び外国語科との連携、また特別な教科道徳への教科連携が示されている。本研究では、ここに現職者の意識調査による知見から教科連携の可能性を探った。主な結果は次のようであつた。(1)「学習指導要領解説（国語編）」に示す「特別の教科道徳」（保育・幼稚園職経験者：73.6%、小学校職以上経験者：92.3%）が連携教科として挙げられた。これは、前報（教職志望学生：53.3%）とも同様の高い方向であつた（教職志望学生の教科群では相対的に高い）。(2)同解説には明示されていない「図画工作」（保育・幼稚園職経験者：83.1%、小学校職

以上経験者：95.0%）が高い百分率を示した。（3）同解説には明示されていない5領域の中の「人間関係」（保育・幼稚園職経験者：90.0%，小学校職以上経験者：100.0%），「環境」（保育・幼稚園職経験者：66.7%，小学校職以上経験者：71.4%），「言葉」（保育・幼稚園職経験者：74.7%，小学校職以上経験者：81.0%）がそろって高い百分率を示した。（4）同解説には明示されていない5領域の中の「表現」（保育・幼稚園職経験者：88.4%）は高い百分率を示したが，小学校職以上経験者の「表現」は10%と低く，またともに「健康」は3割に満たなかった。（5）同解説にある言語系科目においては，小学校職以上経験者が「外国語活動」（65.8%），「外国語」（63.9%），保育・幼稚園職経験者が「外国語活動」（47.4%），「外国語」（59.2%）の百分率を示し，教職志望学生と比べるとかなりの数値を示した。（6）このほか，保育・幼稚園職経験者では「音楽」（64.9%），「生活」と「体育」（61.5%），「特別活動」（58.3%）などが高かった．小学校職以上経験者では，50%以上の高い百分率を示す教科は認められなかった．具体的な授業プランについてはさまざまな考え・抱負が得られたので，本稿では拙速に大まかな総括を試みることは控えて，その一端を引用するに留めた．ケース1（人間関係）のように「一匹だけ体の色が違うことを気に留めず，またそれを生かしてみんなの事を励ましたり力になろうとする姿．みんなで力を合わせれば何でもできるという事」，ケース3（表現）のように「木，布や紙，様々な素材を使って，海の生物を作る，独創する力を育む」，ケース4（外国語活動）「英語の絵本の読み聞かせ．また制作物を使って物語を表現，発表，鑑賞する．」，ケース5（小学校か中学校の理科）「スイミーたちのように海にいる生物はいろんな方法で身を守っている．群れで行動するもの以外にも岩に擬態したり砂に潜ったりするものもいる．いろんな生態を知ることこそが生物に対する理解を深めると同時に食物連鎖や命のはかなさなども学んで欲しい．」など，さまざまな構想が示されていた．また，ここに引用しなかった回答には，「PCを用いてどのくらい集まると魚に見えるか」のような独自の回答もみられた．これら現職教員から得られた指導プランを踏まえてであるが，それぞれの領域・教科等

の体系の中で国語教材「スイミー」とそれ以外の領域・教科等の間で相互関連づけの仕方を検討していくことの実現可能性は，教職志望大学生を対象とした前報（笠原・大野木，2017）に留まらず，現職教員を対象とした本研究においても確認できたと判断できよう．今後はさらに具体的な指導プランの検討を進める必要が残されている．

付 記

本稿の初期の分担は笠原が「問題と目的」「総括」，大野木が「方法」「結果」であり，最終的に何度も全体を読み返し合議・改稿して共同でまとめた．

謝 辞

調査実施にあたりご理解・ご協力くださった森俊之先生（仁愛大学人間学部心理学科教授）並びに石川昭義先生（仁愛大学人間生活学部子ども教育学科教授）と，休憩時間に回答くださった教育講習会「教育現場の質をより高めるために（主として幼稚園と小学校教諭対象）」の受講の先生方に厚くお礼申し上げます．また，山本美由紀先生（福井県越前市北新庄小学校校長，福井県越前市教育研究会図書館部会長）と回答くださった小中学校の先生方に心よりお礼申し上げます．

引用文献

- 笠原茂子・大野木裕明（2017）．小学校「国語」と「教育心理学」の授業間の連携の実践－試験問題の作成を手がかりにして－ 東海北陸教師教育研究，31，3-13.
- 笠原茂子・大野木裕明（2018）．小学校国語科教材「スイミー」（レオ＝レオニ著）－教職課程の科目間における共通の教材として－ 東海北陸教師教育研究，32，3-15.
- Leo Lionni（1963）．Swimmy．Alfred A．Knopf: New York．レオ＝レオニ（1963）．谷川俊太郎（訳）（1969）．スイミー－ちいさな かしこい さかなの はなし－ 好学社．
- 光村図書（1978/2015）．小学校新国語 学習指導書 二上 たんばば，光村図書．
- 文部科学省（2018）．小学校学習指導要領（平成29年告知）解説 国語編，東洋館．

補注 「スイミー」(レオ＝レオニ作／谷川俊太郎訳より)

- [1] ひろい うみの どこかに、ちいさな さかなの きょうだいたちが、 たのしく くらして た。
- [2] みんな あかいのに、一ぴきだけは からすが いよりも まっくろ、 でも およぐのは だれよりも はやかっただ。
- [3] なまえは スイミー
- [4] ところが あるひ、おそろしい まぐろが、おなか すかせて すごい はやさで、ミサイルみたいに つっこんで きた。
- [5] ひとくちで、まぐろは ちいさな あかい さかなたちを、一ぴき のこらず のみこんだ。
- [6] にげたのは スイミーだけ。
- [7] スイミーは およいだ、くらい うみの そこを。
- [8] こわかった、さびしかった、とても かなしかった。
- [9] けれど うみには、すばらしい ものが いっぱい あった。
- [10] おもしろい ものを みる たびに、スイミーは だんだん げんきを とりもどした。
- [11] にじいろの ゼリーのような くらげ……
- [12] すいちゅうブルドーザーみたいな いせえび… …
- [13] みたこともない さかなたち、みえない いとで ひっぱられてる……
- [14] ドロップみたいな いわから はえてる、こんぶや わかめの はやし……
- [15] うなぎ。 かおを みる ころには、しっぽをわすれてるほど ながい……
- [16] そして、かぜに ゆれる ももいろの やしのきみみたいな いそぎんちゃく。
- [17] そのとき、いわかげに、スイミーたちは みつけた。
- [18] スイミーのと そっくりの、ちいさな さかなの きょうだいたち。
- [19] 「でて こいよ、みんなで あそぼう。おもしろい ものが いっぱいだよ！」
- [20] 「だめだよ。」 ちいさな あかい さかなたちは こたえた。
- [21] 「おおきな さかなに、たべられて しまうよ。」
- [22] 「だけど、いつまでも そこに じっと してる わけには いかないよ。 なんとか かんがえ なくっちゃ。」
- [23] スイミーは かんがえた。 いろいろ かんがえた。 うんと かんがえた。
- [24] それから とつぜん スイミーは さげんだ。 「そうだ！」
- [25] みんな いっしょに およぐんだ。 うみで いちばん おおきな さかなの ふりして！」
- [26] スイミーは おしえた。 けっして はなればなれに ならない こと。 みんな もちばを まもること。
- [27] みんなが、一ぴきの おおきな さかなみたいに およげるように なった とき、 スイミー は いった。 「ぼくが、めに なろう。」
- [28] あさの つめたい みずの なかを、ひるの かがやく ひかりの なかを、みんなは およぎ、おおきな さかなを おいだした。